

ISK経営塾66期 講義キーワード

第1回

2005年4月4日(月)

◆前回講義キーワード

- 人間誰しも素晴らしいモノを持っている。いかにそれに気付き、発揮させられるかが大事。
- 過去への後悔、未来への不安などにとらわれているのは無駄なだけ、我々はいま・ここに生きている。
- 深刻ぶるのではなく、いま・ここを真剣に燃える。
- 何事に対しても「ありがとう」という感謝の気持ちを忘れない。感謝の心があれば、物事の本質が見えてくる。
- 相対ではなく、いかなる時も矢印を自分にむけて、一体・絶対となる。だからこそ、紙一重の差が見えてくる。
- 経営とは『原理・原則』 + 『意識改革』 + 『コンセプトの追求』である

- 習慣とは第二の天性である。勝てる習慣、クセを身に付けよう。
- 「やばい」と思った瞬間に思考は止まってしまう。リーダーは絶対積極。思った通りになる。
- 意思力は弱い。イメージ力を強くして、我慢ではなく忍耐をする。
- 納期には心の納期があることを認識する。相手の期待納期を上回ることで満足が生まれる。
- 物の整理ができれば、時間・情報・顧客・金などの整理も自然とうまくいくものである。
- 当たり前のことを当たり前に、精度をあげていけば必ず儲かる。やれることをやっていない事が多すぎる。
- 幹部・リーダーの任務は現在の問題処理ではなく、未来の構想、目標明確化、問題形成である。

- 未来は全て仮設である。「こうなりたい」などのイメージを鮮明に強く持ったもの勝ちである。
- 仮設をたてて、ターゲットを明確にするからこそやるべき事が見えてくる。“誰に”・“何を”・“どのように感じさせて”が明確になる。
- あるべき姿、夢があるから今が輝く、パワーが出る。
- あるべき姿があるからこそ、何のために今の“戦闘”があるのかが明確となり、意思の入った“働き”ができる。
- 問題の切捨ては、あるべき姿へ向かう道の上にあるかどうかで見極める。あるべき姿がなければ全てが問題となってしまう。
- 夢も経営資源。夢のない会社に魅力は生まれない。
- 現在の延長上に未来があるのではなく、未来から見て今やるべきことを見極める。
- 過去の結果が今。今の積み重ねが未来である。

- 自分の会社のポリシーはあるか。実務能力と理念・哲学をバランスよく持ち、ベターブリッジをかけていく。
- 仮設→検証を繰り返していくことで、ノウハウを生み出す。
- 現状を先に見れば、やれない理由ばかり。現状から見るのではなく、未来の可能性を信じたダイナミックな夢を描く。

以上